



[Ishikari]

2015

Vol. 319

JAいしがい



発行/石狩市農業協同組合

合併号



JAいしかり地物市場「とれのさと」オープン

4月10日に、JAいしかり地物市場「とれのさと」が平成27年度の営業を開始しました。

9時半のオープンを迎えると同時に、「とれのさと」を心待ちにしていたお客様で店内が溢れ、オープンの目玉商品『越冬キャベツ』を次々とかごに入れるお客様が多数見受けられました。また、新商品、石狩産米なまつぼしを使った『鯖の棒寿司』も、新聞の広告があっただけで飛ぶように売れ、オープン3日間で予定数量を完売することができました。尚、今年度の営業は12月6日(日)迄となっております。

本年度も、皆様のご来店を心よりお待ちしております。

第27回通常総会開催



第27回通常総会が4月3日午前10時より花川北コミュニティセンターで開催されました。開催に当たり吉田代表理事組合長より次のように挨拶が述べられました。『融雪も順調に進み、春の農作業の忙しい中、多数の組合員皆様のご出席を賜り、誠にありがとうございます。また、田岡石狩市長をはじめ、ご来賓の皆様方に於かれましては、公務ご多用にもかかわらずご臨席を賜り心より厚くお礼申し上げます。日頃より当組合の事業運営に関

しまして格別なるご指導・ご支援を頂いている事につきましてでも深く感謝を申し上げる次第でございます。昨年の日本経済をみると、消費税率引き上げに始まり個人消費が一時、減退はしましたが、日銀の量的・質的金融緩和の効果もあり、デフレ脱却に向けて着実に進展が見込まれております。

その様な中、政府与党は昨年6月に突然、「規制改革実施計画」を閣議決定し農協系統組織に自己改革を求める内容を示しました。これを受けJAグループ北海道は、組合員の意見を取り入れ、「多様な価値観に応える北海道農業」、「時代に即した協同組合への改革」をテーマに全道各地で組合員組織討議を実施し、政府に申し入れをしたにもかかわらず、本年2月には農協をまとめる役割の中央会を弱める改革案を打ち出しました。JAグループ北海道としては、わが国の食料基地として安全・安心な農畜産物を生産し、安定的に消費者に提供するという使命を果たすため、また、「持続可能な北海道農業の実現」に向け、必要な農業政策を国に求めていくとともに、自らも農業生産を担う多様な担い手の確保・育成に取り組んで参りました。

さて、昨年度の石狩市の農業は、大雪に見舞われたものの、雪解けが早く、春作業は近年にないほど順調に進みました。その後、干ばつや長雨に

よる播種、定植の遅れや生育障害などで一部の農産物に被害が発生致しました。米穀につきましては、一昨年を上回る出荷数量で作況指数108に加え品質も良く全量1等米で取引されましたが、全国的な米価下落に伴い概算単価が下り計画を下回りました。小麦につきましては、刈り取りは、晴天に恵まれ順調だったものの製品自体は細粒傾向で、作付面積は増加致しましたが、出荷数量は前年度並みに留まりました。蔬菜関係につきましては、出荷期全般を通じて、増税の影響も有り消費の減少化が続き安値市況で推移致しました。中でも当組合の主力野菜であります人参、大根、馬鈴薯と言った根菜類が大きな影響を受けております。米、野菜を問わず農産物の価格低迷による収入減少が組合員にとって重要問題と捉え、低金利の緊急支援資金を用意し対応を図って参りました。

更には、後ほど剰余金処分案の中で参りますが、消費税増税によるコスト負担の軽減を図るため、農業施設関係の利用料に対し、利用高配当を見積もり致しましたので、ご理解を賜りたく存じます。また、地物市場「とれのさと」につきましては、出荷者協議会の地産地消や食の安全安心による地域への貢献が評価され「JA北海道中央会 会長賞」を受賞する事が出来ました。信用事業では、効率化を図り、より高度な組合員サービスの提供を目指し、資産管理業務と金融融資業務を組織統合致しました。今後は、高齢化対策として、相続・資産活用と言った相談業務の充実強化により一層努力して参ります。購買事業では、肥料・農薬の主要資材の「早期取りまとめ」・「無人ヘリ防除」を奨励し資材コストの低減に努める一方、大口取引奨励金の見直しを図り組合員の負託に应运り参りました。

農協全体では、経費の削減、経営の健全化とコンプライアンスの徹底により、信頼されるJAであることを基本に、役員員一体となり事業推進に最善を尽くして参りました。



挨拶の松本文男議長

このような中で、当組合の総合収支は、組合員のみなさまのご協力により事業利益では28,854千円の実績となり、当期末処分剰余金は45,724千円を計上することができました。これも一重に組合員のみなさまのご協力と系統連合会のご指導とご支援の賜であり心から感謝とお礼を申し上げます。剰余金処分案につきましては、一層の財務基盤の充実と内部留保に特段のご理解を賜りますよう

よろしくお願い申し上げます。さて、27年度事業ですが、T P P交渉に関しましては、大筋合意に向けて、参加各国による、閣僚会合や日米2国間協議などが断続的に行われ、1月には、米の特別輸入枠の拡大や牛肉・豚肉の関税大幅引き下げなどが報じられ、余談を許さない状況が続いておりますが、引き続きJ Aグループと致しましては、組織を挙げて、米、麦をはじめとする重要5品目を関税撤廃の対象から除外する事を求めた国会の決議を遵守するよう要請して参ります。

また、政府は、農協改革の手を緩めること無く、農協解体論を押し進めて来る事が予想されます。今一度、組合員の為の農協・系統組織であると言う基本をしっかり認識した上で、「組合員の所得向上」、「農村地域の活性化」更には「持続可能な北海道農業の実現」、「豊かな地域社会の実現」に向けて、それぞれの立場、役割のもと確実に自己改革を実行して参ります。J Aいしかりとしては、国内外の農業情勢がめまぐるしく変化している昨今ではあります。食の安全・安心を通じて消費者との絆(きづな)を深め、従来から実施している栽培履歴の記帳による生産過程の見える「安全」、J A直売所では生産者の顔写真や対面で販売する顔の見える「安心」を提供して参ります。さらには、残留農薬の自主検査を実施しイエスクリーンなどの環境に優しい農業を推進して参ります。農産物販売につきましては、石狩の都市近郊という立地条件を活かした販売戦略として、新たなブランド発掘のため、関係機関と連携し、試験圃場の充実に図って参ります。

また、農産物流の拠点となる野菜集出荷施設「ベジタブルファクトリー」の有効活用的一端として、従来からの基幹作物である重量野菜などは、大型予冷庫の効率的活用による有利販売を実戦し、道内外に石狩産農産物の良さを発信して参ります。地物市場「とれのさと」は、地産地消の拠点として、また農業6次産業の拠点としての利用者ニーズに応えるよう売り場の拡張、品揃えの工夫をして、さらにご利用しやすい施設運営を行います。加工施設を有効活用し石狩産農産物を原料とした新たな商品の開発を進めます。また、長年に渡り、ご利用頂いております、生振事業所



につきましては、本年6月をもって業務を終了し、売却を予定しております。特に、生振地区の組合員の皆様には、合併以前より慣れ親しんできた農協ですので、ひとしおの思いがあるかと存じますが、今後に於いては、農協改革の一つでもあります「出向く営農支援」のモデル地区として専任職員を配置し、組合員対応を図って参ります。また、合併当時から利用されておりました花畔地区の1,200坪の土地につきましては、地域の医療機関であります「はまなす医院」さんに売却することとなりました。最後になりますが、J Aの組織整備の検討については、平成24年9月に設置したJ Aいしかり、J A北いしかり、J A新いしかりによる「石狩北部J A組織検討部会」において、これまで広く地域農業や組合員経営、J A運営のあり方を検討してきました。この間も、農業・J Aを巡る情勢は目まぐるしく変動しており、組合員の所得向上を含め様々な課題に対して、中長期的な視点を持ちながらも、迅速に対応していく必要が生じております。このため、今年度については、とりわけ3J A間で連携・共同して取り組める事項を含めさらに検討を進めて参ります。本年も、J Aらしさを基本として組合員や地域利用者のお役に立てるよう、総合事業の機能発揮による多様な事業活動を展開し、経営環境の複雑化、高度化に対応しうる専門性を有した人材の育成に努め、役員一丸となり、組合員と地域の信頼に応える「J A経営の展開」に向かって取り組んで参る所存であります。その後、来賓の石狩市市長岡田克介様、ホクレン農業協同組合連合会札幌市支所長関根良介様よりそれぞれ祝辞を述べられました。議長には松本文男氏(高岡地区)が選任され、正組合員総数584名の内正組合員出席数495名(内本人出席199名、代理出席21名、議決権行使書面255名、委任状20名)で総会の成立を認め、議案審議に移りました。提出議案1号から議案8号並びに報告事項1と2について理事者から説明があり、原案通り可決されました。決議事項「農協改革に関する決議」T P P等国際貿易交渉から北海道を守り抜く」と題し、J Aいしかり青年部増田崇紘部長より決議表明があり満場の拍手の元、特別決議されました。閉会にあたり中村専務理事より挨拶があり、最後に石狩市議会議長青山祐幸様の音頭で万歳三唱を行い12時12分に閉会しました。



決議表明する増田青年部長

平成26年度 農協功労者表彰

農業発展経営向上に貢献

平成27年3月11日、北海道農業協同組合中央会より北海道農業協同組合功労賞授賞式が行われ、当石狩市農業協同組合 吉田久雄代表理事組合長が受賞されました。

平成19年から代表理事組合長を歴任され共撰場の統合、直売所「JAいしかり地物市場とれのさと」を建設し、高齢者の生きがいの場提供や6次産業化に貢献、更に新規野菜試験場を設置し、研修や食農教育の場を積極的に取り組みJA組織事業の発展に尽力されたこと並びに広域的なJA運動にも尽くされた事が、この度栄誉ある功労賞受賞となりました。



吉田代表理事組合長ご夫妻で農協功労賞授賞式

地物市場とれのさと 「日本農業賞、北海道 中央会会長賞」を受賞

2月24日、地物市場とれのさとが「日本農業賞、北海道中央会会長賞」として表彰されました。日本農業賞の食の架け橋部門としてその多彩な活動が評価され、吉田代表理事組合長と直売所出荷者協議会 大村会長がJA北海道中央会 飛田会長より表彰を受けました。飛田会長は、多彩な取り組みについて「他のJAにとって見習うべきものが非常に多い」と称え、吉田組合長は「高齢者の生き甲斐の場にもなり、販売を伸ばせている。これからも組合員とお客さんのため頑張っていきたい」と述べておりました。また、大村会長からは「新鮮なものを地元のお客さんに届けた」といふ思いが通じ、多くのお客さん



「とれのさと」活動評価され喜びの受賞

に来てもらえている」と受賞に当たって喜びを話されておりました。とれのさととは平成23年にリニューアルオープンして以来年々売上も増加し、出荷者協議会による消費者目線にたった販売ルールの確立や女性部・加工グループを始めとした6次産業化の推進・会員制の導入など他道内JA直売所に負けない取り組みが評価されました。今後益々食の安全・安心が求められる中、とれのさとはその要望を果たし地域住民に愛さ

れ食の情報発信を兼ね備えた店舗作りを更に推し進めて参ります。直売所出荷者協議会会員の皆様におかれましては、この度の受賞本当におめでとうございます。

直売所出荷者協議会 視察研修〈函館〉

JAいしかり直売所出荷者協議会は、会員・事務局計27名の団体で、3月20日～21日にかけて、函館方面に一泊二日の視察研修を行いました。

初日は、道の駅『だて歴史の杜』を立ち寄り、生産者別個人棚など参考になる取り組みが多く見受けられました。午後からは函館市観光を行い、生産者のつかの間の一時が見受けられました。2日目は、函館直売所『あぐりへいや』、ホクレン『くるるの杜』を視察。中でも、『あぐりへいや』の地元漁協と連携した商品販売や『くるるの杜』の直販だけではなく、レストランや農作業体験教室などのイベント実施はとても印象的でした。平成27年度、リニューアルオープンを迎える事務局一同に、とても良い刺激となりました。駆け足での視察にはなりませんが、会員皆様のおかげで有意義な視察研修と成りました。ご協力いただきありがとうございます。



「あぐりへいや」視察研修にて記念撮影

青年部・女性部 合同研修会開催

3月16日JAいしかり青年部とJAいしかり女性部が、今回初となる合同での研修会が開催されました。

今回の研修会は2月に当JAで開催された青年部・女性部・JA役員との意見交換会で要望のあった「JA共済のしくみ」と「JA組織について」の2つについてJA共済連、JA北海道中央会より講師を招き、総勢27名が参加しました。

一つ目の講習「JA共済のしくみ」では講師のJA共済連札幌支所主査 板垣雄介氏よりJA共済の特色である人・家・車の総合保障についての説明があり、共済に加入している参加者も改めてそのしくみと重要性を確認し、二つ目の講習「JA組織について」では講師のJA北海道中央会札幌支所長 宇野広勝氏が組織の成り立ちやT P P問題、JA組織改革に関する問題を分かりやすく解説を受け参加者は更なる理解を深めておりました。



合同研修会で説明を受ける部員

JAいしかり青年部 第28回通常総会開催

3月27日、JAいしかり青年部の第28回通常総会が開催されました。

部員19名が出席し、開催前には昨年、石青協道外視察研修で台湾を訪問した小林卓也さんが視察の報告を部員に行いました。

総会では雉子谷辰也部長の挨拶の後、来賓挨拶を同JAの中村武史専務、石狩地区JA青年部連絡協議会会長にこの度就任した小林卓也部員、同JA女性部 川崎寿子部長、普及センター石狩北部支所 佐々木徳雄所長より頂きました。議事では昨年度の事業報告や新年度事業計画など承認されました。

役員改選では、部長に増田崇紘さん(高岡地区)を新たに選任しました。新役員は次の通りです。(敬称略)

- 部長 増田 崇紘 (高岡地区)
- 副部长 横山 忠昭 (北生振地区)
- 副部长 山内 克彦 (美登位地区)
- 代表監事 藤岡 裕寿 (高岡地区)
- 監事 村上 貴彦 (北生振地区)



JAいしかり女性部 第27回通常総会開催

JAいしかり女性部(部長 伊藤佐智子)は第27回通常総会を3月18日、石狩市農協本店大会議室において部員29名出席のもと開催されました。

今年度は役員改選により伊藤部長に代わり、川崎寿子氏を新たに選出しました。総会では女性部綱領朗唱に続き、伊藤部長の挨拶の後、来賓のJAいしかり吉田代表理事組合長、JAいしかり青年部 雉子谷辰也部長、農業改良普及センター北部支所 佐々木徳雄支所長よりそれぞれ祝辞を頂きました。その後、美登位地区の新居久美子さんを議長に選任し議事に入り、平成26年度事業報告、収支決算報告、平成27年度事業計画、収支予算等全ての提出議案について議事を進め承認を得ました。又、総会後は、制作経験のある部員が指導に当たり制作活動として色とりどりのドライフラワーを用いて「帽子リース」の作成を行いました。

新役員は次の通りです。(敬称略)

- 部長 川崎 寿子
- 副部长 伊藤 良子
- 副部长 熊倉 恵里
- 会計 熊倉 恵里
- 理事 熊倉 恵里
- 理事 熊倉 恵里
- 理事 熊倉 恵里
- 理事 熊倉 恵里
- 代表監事 熊倉 恵里
- 監事 熊倉 恵里



第27回そ菜園芸振興会 通常総会開催

3月17日第27回そ菜園芸振興会の通常総会が開催されました。振興会会長の毛利勝正会長が開会の挨拶を行い、平成26年度の部会事業報告、収支決算報告、平成27年度の事業計画、収支予算書、新役員の改選などの議案



毛利会長の開会挨拶

が原案通り承認され無事に終了しました。

振興会では、活動の活性化を図るための事業を今後の役員会で検討する事としており、ますので、今後皆さまにご案内することとなっております。



9部会合同通常総会 アスパラ栽培技術講習会開催

2月26日に、そ菜園芸振興会の平成26年度9部会（Gアスパラ・さやえんどう・メロン・育苗・人参・食用馬鈴薯・南瓜・採種・長いも）合同通常総会が開催されました。開会挨拶を9部会の代表として人参部会紺田忠幸会長が行い、議長に石井信也さんが選任され、平成26年度の部会事業報告、収支決算報告、平成27年度の事業計画、収支予算書、新役員の改選などの提出議案が原案通り承認されました。閉会にメロン部会の松本尚俊会長



紺田会長の挨拶

が挨拶し、無事に総会が終了致しました。総会終了後に、アスパラ栽培講習会が開催されました。講習会は、シンジエンタージャパンの皆川様を講師に招き、アスパラ定植と栽培上のポイントなどを説明して頂き、会員からの十質問にも丁寧に対応が出来ます。



ブロッコリー部会通常総会、 スイートコーン作付け講習会開催

2月28日にブロッコリー部会の平成26年度通常総会が開催されました。

川崎藤男会長が開会挨拶を行い、平成26年度の部会事業報告、収支決算報告、平成27年度の事業計画、収支予算書、新役員の改選などの提出議案が原案通り承認されました。総会終了後には、農薬講習会が行われ、ホクレン生産資材課担当者より残留農薬基準に新たに導入された評価方法への変更による登録農薬変更の内容などが詳しく説明され、農薬の使用には十分注意するようにと説明を受けました。

また同日に、スイートコーン作付け講習会も開催され、今年度よりブロッコリーの連作障害回避、輪作品目として期待されるスイートコーンの栽培について、清水種苗の山崎相談役より栽培を予定している意味（イエロー）の品種特性、栽培管理について説明され、また今年から予定している契約販売について札幌ホクレン青果の森考査役より、出荷方法・販売期間・販売方法などについて説明が行われ、出荷依頼を受けました。

スイートコーン作付けは、札果からの出荷要請や量販店からの早出し出荷要請と作付面積が増加傾向にあるブロッコリーの連作障害回避が期待出来ることから、初年度として作付・早出荷助成金を予算しておりますので、ご検討されている方は青果課までご連絡ください。

高岡施設園芸生産組合通常総会
栽培講習会開催

2月27日に高岡施設園芸生産組合の通常総会が開催されました。開催にあたり藤岡浩晃会長が挨拶を行い、平成26年度の部会事業報告、収支決算報告、平成27年度の事業計画、



藤岡会長の挨拶

収支予算書、新役員改選などについて活発な意見が出され提出議案が原案通り承認され無事に終了しました。

総会終了後には、栽培技術講

習会が行われ普及センターの西原普及員から今年雪解けが早く進んでいる状況であるため排水対策のほか、土壌診断結果に基づいた施肥、追肥不足対策としてロング肥料の使用対応について説明頂きました。また、農薬に

ついては、明治製菓ファルマ(株)木戸様を講師にお越し頂き、効果的な薬剤、果実に汚れが着き

にくい薬剤などが紹介され今後の栽培に大変参考となる講習会となりました。



J A いしかり直売所出荷者
協議会通常総会開催

3月12日、JA いしかり直売所出荷者協議会の平成26年度通常総会が開催されました。開催に当たり大村喜紀会長より「去る2月24日、私たちのとれのさとが『日本農業賞 北海道中央会会長賞』を受賞しました。我々の取り組みが評価された結果であり会員皆様のご協力の賜と感謝申しあげま



大村会長より受賞、喜びの挨拶

す。今後ともれのさとの更なる発展のため会員皆様のご協力の下、お客様に新鮮で安全安心な農産物を提供して参りましょう。」とご挨拶を頂

き、その後、吉田代表理事組合長より「昨年度は皆様のご協力により目標の2億円を突破することが出来ました。今年も高い目標を掲げておりますが、とれのさとの店舗拡張やPOS機器の入替など当JAとしても設備投資をさせて頂きました。目標達成に向け会員皆様のご協力をお願いします。」とお話し頂きました。総会の議長として山内克彦さんが選任され、平成26年度事業報告、収支決算書、平成27年度事業計画案、収支予算案など全ての提出議案が原案通り承認され、盛会のうちに終了致しました。

安心米生産組合・
米麦振興会通常総会開催

3月17日に本店大会議室にて安心米生産組合通常総会、その後茨戸ガーデンにおいて米麦振興会通常総会がそれぞれ開催され、平成26年度の事業報告・収支決算並びに平成27年度事業計画・収支予算(案)が承認されました。

米麦振興会議事終了後には、ホクレン札幌支所米農産課 守屋調査役より平成26年度産の水稻の販売情勢並びに価格動向が説明され、また小麦をめぐる情勢については道産小麦の契約状況、春小麦の販売状況などが説明され出席された会員の皆様も熱心に聞き入りました。総会終了後は毎年恒例の懇親会が開催され、本年度の総会が終了致しました。



米麦振興会通常総会の模様

地区別懇談会

3月9日～10日にかけて、各地区3会場地区別懇談会を開催させていただきました。懇談会には役員をはじめ全部長、課長が出席し、平成26年度の事業報告、平成27年度の事業計画、第27回通常総会日程について報告を行った後、組合員の皆様より貴重なご意見・ご質問を頂きました。

共通部門

AQ 定款変更の学識経験理事の複数人選択を可能とするために具体的に教えて下さい。
AQ 今後の運営を見据えて、学識経験理事を有する者を充てることのできる選択肢を広げるためです。重要な部分ですので、詳しい内容については理事会等で審議し、役員推薦委員を選出する第2回農事組合長会議でお知らせいたします。

AQ 役員研修の内容を教えてください。また、情報公開し研修結果を若い世代へフィードバックし今後の営農に役立てられるようにしてほしい。
AQ 26年度はシンガポール、マレーシアの農場等を視察研修してきました。今後は組合員だよりや部会の会議等で報告し、これからの営農に役立てていただけるよう情報提供をいたします。

AQ 人事異動は職員の要望等は反映されているのですか。スペシャリストの育成も検討してほしい。
AQ 自己申告書、業務検討書を作成し、戸別に面接を実施しております。自己申告書内で希望部署を記載することになっており、在籍年数や資格取得状況に基づき人事異動を行っております。事業計画にも掲げておりますように職員についてはさまざまな研修を実施し、階層別研修や外部研修を行い、他業種との競争に負けない人材を育成していく考えです。

AQ 合併のお話の進捗状況について教えてください。
AQ 平成24年9月に3JAで設置しました石狩北部JA組織検討部会において地域農業や組合員経営、JA運営のあり方を検討してきましたが、今年JA北いしかり、JA新しのつが役員改選期な事から4月以降に再度検討に入る予定です。今後の運営状況等を考え、JAいしかりとしては役員一同合併へ向けて取り組んでいきます。

AQ 農協改革に出ている准組合員問題はどのようなものですか。
AQ 27年2月の協議で准組合員利用規制の導入は5年間見送りとなっております。
AQ 今後の中央会監査はどのようになるのですか。
AQ 会計監査の権限の撤廃については、JA全中の監査部門を切り離して新たな監査法人に移行させ、地域の農協が一般の監査法人と新たな監査法人のどちらを受けてもよいとする選択制が導入される予定です。

AQ 資産を売却した売却益は剰余金処分で積立金に積むのでは無く、現存の施設の整備等に使用してほしい。
AQ 今後の事業収支を見ながら、施設の整備状況等を含めて検討して参ります。
AQ 多目的倉庫跡に集会所ができる場所の新設は予定していますか。
AQ 今のところ予定はございません。

AQ 生振地区には農協の事業店舗が無くなる、これからの若い人達が営農をする上で農業の衰退化を

加速しているのではないかと施設を残していただけないでしょうか。
AQ 今のところ事業所売却については進めさせていただき、本店、花畔支店、スタンド、とれのと、共選場など施設は他にもございますので利用をお願いいたします。

経済部門

AQ 資材課で取り扱っているダンボールや資材はホクレンだけでは無く、他の業者もいれて競合させ価格設定を行ってほしい。
AQ 段ボールにホクレンマークが入っているから価格が高い訳ではなく、青果物が道外市場へ送ることもあることから、予冷・積み重ねに耐えられる強度が求められおり、一概にホームセンターとの比較はできませんが、資材課としては少しでもコスト低減に結びつくよう部会での取りまとめや、大口ロットで発注する商品については複数社と見積あわせを行い組合員への安価供給に努めて参ります。

AQ 有機JAS農産物を作付けする上で使用できる資材を把握し取り扱いをしてほしいし、情報提供もしてほしい。
AQ ホクレン生産資材課と協議し、使用できる資材の情報提供を行って参ります。
AQ 取り纏め用紙等の提出書類は今後どこに提出するのですか。
AQ 本店または花畔支店に提出頂くか、今後生振地区においては専任職員、専用携帯電話を設置いたしますのでご連絡頂ければお預かりに伺いたいたします。

AQ 生振事業所廃止後は、資材の注文等、生振地区の組合員へはどのような対応となるのでしょうか。
AQ 資材の対応については、今後生振地区においては専任職員、専用携帯電話を設置いたしますので、ご連絡頂ければ随時配達を致します。
AQ 事業所閉鎖時に閉店セール等は行うのですか。
AQ 全商品はできませんが、在庫品を中心に、作業衣料品・一部小農具を生振地区の皆さんに、すこしでも安価に供給するセールを実施致します。

営農部門

AQ 近年は米価の下落、野菜の販売価格が安く非常に苦勞している。しかし、将来を見据えて基盤整備等の先行投資を行っているが、今後も営農していく上での状態が続けば投資はできなくなってしまう。高齢化などで田んぼをやめる人が増えている状況で作付依頼が多くなっている現状で、面積が増えるが収入が伴わないのであれば作付けをひきうけられない。そうならないように生産物の有利販売等を検討してほしい。
AQ 米価につきましては、都府県における過剰作付や作況を背景とした米需給の緩和により26年産の価格は大幅に低落するとともに、米の消費量の減少が続くなど極めて厳しい状況にあります。こうした中JA石狩は系統を通じて有利販売に向けて取り組んでおります。北海道米販売拡大委員会では消費拡大対策として有名ブランドを起用したテレビCMでななつぼしを中心としたキャンペーンを実施しており、また売り急ぎ防止支援事業による保管対策で米価下落に一定の歯止めをかけております。ホクレンによる生産支援策として種籾に対して1袋2,000円の購入費に対して支援することとなっております。今後につきましても再生産価格を割り込まないように系統組織を通じて販売努力をして参りますとともに、低コストで生産できるような方策についても検討して参ります。

AQ 地域に根付いた核となる担い手の創出方法の中で、農業法人の設立とありますが詳しく教えてください。
AQ 農業者の高齢化が進み地域での担い手が限られた状況になってきていることから、若手農業者に農地

の委託が集中してしまい、農作業が賄いきれない状況となるのが危惧されています。そのようなことから農業総合支援センターでは、地域による農業生産法人の設立に向けて北海道中央会コンサル課の指導により実務的な設立支援により、今回生振地区で管内初となる複数戸による農業法人を設立することが出来ました。

AQ 事業計画にある農業のブランド化とは具体的にどのようなものですか。

産地間の競争が増していることから、いしかりブランドの創出による有利販売に向けて取り組んでおりますが、お話にありますような有機栽培のように特殊な技術による栽培方法では無く、地域の生産者皆さんが取り組みやすい生産方法や生産物を選択して普及したいと考えております。今年度につきましては従来からの基幹作物である馬鈴薯について「早出し産地」として特選馬鈴薯の生産における奨励措置や、連作障害の回避も考慮したスイートコーンの生産奨励による産地化を進めて参ります。また農業総合支援センター試験圃場では、今までなじみの無い野菜を試験栽培して、直売所生産者の皆さんに紹介することで、新たなブランド野菜の開発に努めております。

AQ 残渣処理場の建設費を教えてください。

ベジタブルファクトリー裏にあります野菜残渣施設につきましては、付帯工事を含めて約15,200,000円となっております。

AQ 米麦センターのハードコンテナが昨年は不足していたようですが、購入予定はありますか。

昨年度につきましては、米の収穫期が早まったことや、屑小麦の出庫が例年よりも大幅に遅くなったことによりハードコンテナが不足し、ご迷惑をおかけしました。今年度につきましては、麦の作況により収量が多い場合は早期に集約保管を実施してコンテナの確保を図ると共に、ゆめびりかかの調整作業を早めることによりコンテナの回転効率を上げて、ハードコンテナの必要数を確保して参りますので、ご理解ご協力をお願い致します。

AQ これのさとの手数料を値下げと駐車場拡張を検討してほしい。

これのさとにつきましては昨年お客様からのご支持を頂き、売上高消費税込みで2億円を突破することが出来ましたがこれも出荷者協議会をはじめ生産者皆様のご努力あつてのこととお礼を申し上げます。

販売高も順調に上がっているところではありますが、また改装時の償却費および担当職員の人件費その他費用を補うまでには至っておりません。今後生産者の皆様に還元できるように販売努力をして参ります。

なお今年度につきましては農協事業の収支状況を鑑み、剰余金処分の中で利用分量配当として、僅かではありますが施設の利用料およびこれのさと利用料につきまして還元をさせて頂いておりますのでご理解下さい。

駐車場拡張につきましては、隣接地を調べたところ、施設左側土地については狭く地権者が複数いるため拡張効果が望めないこと、施設裏側については農振地域となっていることから規制がありますので、取得については難しい状況となっております。

AQ 営農指導事業の将来を見据えた地域の新たな担い手育成、地域ブランドの創出対策の具体的に取組んだ内容を教えてください。

地域では高齢化や後継者不在などにより農家戸数の減少さらには地域機能の低下が進行しておりますが、農業総合支援センターでは新規就農相談会などを実施して、新たに農業に就こうとする青年への相談や就農支援に取り組んでおります。

今年度につきましては1名が営農を開始する予定で、来年度も1名が営農を開始できるように農家で研修中ですが、また今年新たに1名が就農研修を開始する予定となっております。また地域での新たな経営形態として複数戸による農業生産法人の設立にも支援をしております。

JAでは新たなブランド創出を目指して、支援センター試験圃場での新規作物栽培試験から直売所出荷品目を創出してまいります。また従来から栽培されている作物の中から地域にあった栽培方法や出荷体制を整備して地域ブランド化を進めてまいります。

AQ 施設割戻は施設の利用者が対象と言っていますが、他組合の方も利用していますが、割戻対象なのでしょうか。今回の利用分量配当につきましては、JAいしかりの組合員に限り配当の対象とさせて頂いております。

金融共済部よりお知らせ

セブン銀行ATMで (セブン銀行ATMはセブン-イレブンなどにあります。)

JAバンク キャッシュカードが使えます。

4月1日から
ご利用時間
拡大
ますます便利!

平日 **1時間延長!**

土・日・祝日 **2時間延長!**

セブン銀行ATM JAバンク北海道キャッシュカードご利用時間

平日 8:00~22:00
土・日・祝日 9:00~19:00

1/1~3, 5/3~5は取引不可。ただし5/3~5/5が日曜日と重なった場合は取引可能。

ご利用
手数料 平日8:45~18:00
土曜9:00~14:00

0円 日曜・祝日および上記以外の時間帯は108円(消費税等含む)のご利用手数料がかかります。残高照会は無料です。



耕耘機の説明を受ける組合員

春の小農具。

自動車展示会開催

3月27日、ヘジダブルファクトリーの倉庫及び敷地にて、小農具展示会を開催致しました。当日は晴天に恵まれ、午前9時より沢山の組合員様が来場し、洗車機、工具セット、簡易水洗中古トイレ等をご購入いただきました。また、新車・中古車の試乗やトラクターや耕耘機の実機展示も行い、直接メーカー担当より詳しい話を熱心に聞いていらっしゃる方もおられました。

お昼には「そばの無料サービス」があり、食べた方みなさんより「美味しい！」と大変ご好評をいただきました。当日ご来場してくださりました組合員の皆様、ありがとうございました。

はもちろん、小農具・農機等は資材課、新車・中古車は燃料自動車課で常時取り扱い、販売してございますのでお気軽にご利用、ご用命をよろしくお願致します。

本店資材課営業時間について

	平 日	土曜日・祝祭日	日曜日
4月18日～5月31日	8時30分より17時00分		休 み
6月 1日～9月30日	8時30分より17時00分	8時30分より12時00分	休 み
10月1日以降	8時30分より17時00分	休	み

※上記は本店の営業時間となっており、生振事業所は土・日・祝祭日は休みとなります。

※7月以降の土・祝祭日についての配達は出来かねますので何卒ご了承下さい。

「資産管理課」業務の移行に係るご案内について

機構改革に伴い業務の内容が一部以下の通りとなりましたのでご案内致します。

住宅や倉庫などの新築及び改装・塗装についてのご相談窓口

旧 体 制

花畔支店 資産管理課



新 体 制

本店 資材課 (TEL:66-4488)

今後ともご愛顧の程、宜しくお願致します。

生振事業所閉鎖のお知らせ

日頃より当農協事業に対しまして特段のご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、生振事業所においては、合併前の生振農協時代の昭和61年に建設されてから地元の皆様にご愛顧頂いて参りましたが、諸般の事情により来る6月26日を持ちまして事業所を閉鎖する運びとなりました。

皆様の長年にわたるご厚情に心から感謝申し上げますと共に、突然の廃業でご迷惑をおかけしますことを深くお詫び申し上げます。

理事会だより

第1回臨時理事会 ~3月2日~

◆ 報告事項 ◆

- ① 平成26年度監査報告
- ② 営農経済委員会報告
- ③ 管理金融委員会報告
- ④ 内部審査結果報告
- ⑤ 「JA統一ローン」に係るキャンペーンの実施について
- ⑥ 平成26年度自己資本比率について
- ⑦ 青年部・女性部・JA役職員との意見交換会について
- ⑧ 「TPPから命と暮らしを守ろう!北海道緊急大集会」の開催について
- ⑨ 地区別懇談会議案について

◆ 審議事項 ◆

- ① 第4四半期自治監査結果について
- ② 定款の一部変更について
- ③ 規程の一部変更について
- ④ 規約の一部変更について
- ⑤ 信用事業規程の一部変更について
- ⑥ 平成27年度余裕金運用方針について
- ⑦ 固定資産の処分について
- ⑧ 第27回通常総会議案について
- ⑨ 平成27年度内部監査計画(案)について
- ⑩ 平成27年度事業計画(案)について

第2回定例理事会 ~3月19日~

◆ 報告事項 ◆

- ① 管理金融委員会報告
- ② 役員賠償責任保険の継続並びに保険料負担について
- ③ 平成27年度クミカン供給限度額・貸越極度額現金供給限度額設定について
- ④ 農業委員会総会について

◆ 協議事項 ◆

- ① 役員視察研修について

◆ 審議事項 ◆

- ① 平成27年度特定組合員営農計画総括及び供給限度額・貸越極度額・現金供給限度額の設定について
- ② 貸付金の申込み査定について
- ③ 出資金の減口について
- ④ 花畔給油所灯油備蓄タンクの新設に伴う解体工事の施工について
- ⑤ 第27回通常総会招集通知書、議決権行使書面について

3月のあゆみ

- 2日 臨時理事会
- 3日 石狩地区農協農政対策委員会
- 4日 農協改革に係る意見交換会
- 5日 担い手フォーラム
- 9日 地区別懇談会(石狩地区)
- 10日 地区別懇談会(花畔・生振地区)
- 11日 北海道農業協同組合功労賞授賞式・営農連絡協議会
- 12日 直売所出荷者協議会総会
- 13日 管理金融委員会
- 16日 青年部・女性部職員合同研修会
- 17日 そ菜園芸振興会総会・安心米生産組合総会・米麦振興会総会
- 18日 道農協米対策本部委員会・女性部通常総会
- 19日 第2回定例理事会

- 23日 札幌協議会
- 25日 長芋部会栽培技術講習会
- 26日 農業委員会総会
- 27日 ホクレン監事会・ホクレン理事会・青年部通常総会・小農具・自動車展示会

訃報

- | | |
|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 南線共栄1班
佐々木 裕 享年58歳
平成27年2月28日逝去 | 南線共栄4班
川上 澄子 享年78歳
平成27年4月7日逝去 |
| 五の沢
金沢 一生 享年83歳
平成27年3月9日逝去 | 生振第一組合
吉田 弘一 享年81歳
平成27年4月10日逝去 |
| 花畔北区(志美)
阿部 章 享年85歳
平成27年4月7日逝去 | |

謹んでお悔やみ申し上げます。

JA 組合員のみなさまへ 農業者賠償責任保険のご案内



賠償責任保険普通保険約款＋事業活動特別約款（農業者賠償責任保険用）＋農業者特約

農業者賠償責任保険とは・・・

農業において発生する様々な法律上の賠償責任リスク（施設リスク・生産物リスク・保管物リスク）をカバーする農業者向け専用商品です。特約（生産物品質特約）を任意に付帯することによって残留農薬に関するリスク（回収費用）もカバーできます。この保険はJAを保険契約者とし、組合員である農業者・認定農業者（個人・法人）・集落営農組織（法人）を加入者（被保険者）とする団体契約です。

○農業者賠償責任保険で保険金支払の対象となる事故例は次のとおりです。

施設リスクの事故例

- ◇薬剤散布中、隣家の畑の作物に薬剤が飛散し出荷できなくなった。
- ◇薬剤散布中、隣家の車に薬剤が付着し腐食させた。
- ◇畦（あぜ）の草刈中、小石をはねて通行人にケガをさせた。
- ◇出荷用ダンボール箱が崩れ、近くにいた隣家の子供がケガをした。
- ◇飼育中の牛が逃げ出して通行人に体当たりし、ケガを負わせた。

生産物リスクの事故例

- ◇出荷した野菜に金属片が混入していたため、サラダとして食べたお客様が口の中を切った。
- ◇直販所で販売した生産物に細菌が付着していたため、それを食べたお客様が食中毒になった。

保管物リスクの事故例

- ◇他人から預かった農作物を納屋に保管中、泥棒に盗まれた。
- ◇借用農機具を納屋に保管中、火災で焼失した。



生産物品質特約の事故例

- ◇出荷した農産物から基準値を超える残留農薬が検出され、法令等により当該農産物を回収する必要が生じた。



○補償パターンと保険料例

（保険期間 1 年）

農地面積	期間中支払限度額 3,000 万円コース		期間中支払限度額 5,000 万円コース		期間中支払限度額 1 億円コース	
	基本契約のみ	基本契約 + 生産物品質特約	基本契約のみ	基本契約 + 生産物品質特約	基本契約のみ	基本契約 + 生産物品質特約
0.5ha 未満	6,380 円	7,380 円	8,200 円	9,200 円	11,850 円	12,850 円
0.5ha 以上～1ha 未満	8,580 円	9,580 円	10,560 円	11,560 円	14,370 円	15,370 円
1ha 以上～2ha 未満	9,900 円	10,900 円	12,020 円	13,020 円	16,030 円	17,030 円
2ha 以上～4ha 未満	12,100 円	13,450 円	14,480 円	15,830 円	18,880 円	20,230 円
4ha 以上～20ha 未満	20,130 円	22,830 円	23,490 円	26,190 円	29,360 円	32,060 円
20ha 以上～50ha 未満	52,160 円	57,560 円	59,860 円	65,260 円	72,360 円	77,760 円
50ha 以上～500ha 未満	102,610 円	108,010 円	117,490 円	122,890 円	141,110 円	146,510 円

★このチラシは農業者賠償責任保険の概要を説明したものです。特約の支払限度額をはじめ、詳細につきましてはパンフレット【農業者賠償責任保険】（PE101400）をご参照ください。

お問い合わせは

<取扱代理店>

JAいしかり

住所：石狩市八幡2丁目332番地11

電話：0133-66-3321

<引受保険会社>

共栄火災海上保険株式会社 北海道支店 札幌支社

住所：小樽市港町4-3

電話：0134-24-1438